



日常生活における分析

科警研の鈴木さんからリレーを引き継ぎました TDK の大石です。最初はあまり深く考えずにリレーを引き受けたのですが、民間企業では本欄初とのこと、日が経つにつれてどんな内容がいいのかプレッシャーを感じながらのエッセイ作成となりました。ここでは、日常生活で「分析」を感じながら行動していることについて述べたいと思います。

私は会社では ICP-MS などを使った無機分析の仕事に従事しています。家に帰ったら分析のことはきっぱりぬぐいさって、といきたいのですが、15年以上この業界にいるとなかなかそうはいきません。やはり家に帰っても物事を分析的な視点で検討してしまうことがあります。その中の一つが「おいしいコーヒーの淹れ方」です。

私は大のコーヒー好きで（お酒も好きですが）、お酒と違ってコーヒーは朝も飲めまずし会社でも飲むことができますので、いつでも飲むことができるリラックス飲料、気分転換飲料として重宝しています。そんなコーヒーとの出会いですが、私の実家では母が大のコーヒー好きで、私が小さい頃からドリップでコーヒーを入れるのを見ていました。そんな母がたまに余ったコーヒーで「コーヒー牛乳」を作ってくれたのが最初の出会いだったと思います。大学に入ってからでもコーヒー好きは変わらず、車で出かける時には常にホルダーには缶コーヒーという感じでしたが、この頃から手作業で淹れてくれる喫茶店でコーヒーのおいしさにのめり込み始めました。

結婚してしばらくして、家でおいしいコーヒーを飲みたい！と思うようになり、コーヒーミルを買って自分で豆を挽いてコーヒーを入れるようになりました。おいしいコーヒーを淹れる検討といっても、会社では分析機器を使った検討が主ですが、家に帰れば分析機器はありませんので自分の舌（ペロメーター）と鼻のみが頼りの検討になります（ただし体調誤差も大きい）。

最初に検討したのが自分にあったコーヒー豆を探す、ということで、値段の高いブルーマウンテンから安いブレンドまで数十種類は試したでしょうか。豆によって酸味・苦み・甘み・香りが随分違いますが、酸味と苦みのバランスがよく口に含んだときに独特の甘みを感じるキリマンジャロが自分には合っているように感じました。また、コーヒー豆は開封後2週間程度で「嫌な酸味」が増加してくる（たぶん酸化による）ようで、購入の際に、焙煎から余り時間の経っていない豆を買う、少量ずつ買う方がいいことを多くの失敗から学びました。

コーヒー豆がキリマンで固まると、次はコーヒーの淹れ方に凝るようになります。我が家ではミルでコーヒー豆を挽いてペーパードリップ法でコーヒーを淹れていま

す。方法は簡単ですが、毎回同じ味になるかということこれがなかなか難しい！のが実情で、満足できる味になるのは一週間に一回程度です。「ぶんせき」のエッセイです。少しは分析の視点からコーヒーを淹れる作業を見てみます。生豆からスタートする場合は焙煎という工程が入りますが、お店では主に焙煎後のものが売られているため、豆の粉碎→温水抽出→濾過という工程を踏むこととなります。粉碎に用いるミルは手動、電動とありますが、我が家ではうまく使えば風味をよく引き出せる手動のミルを10年近く愛用しています。このミルも中々くせ者で、少し固い豆が入っていると挽きムラが多くなったり粉の粒径が安定しなかったりと、完全には使いこなせていません。たとえ同じ豆を購入しても焙煎の具合により豆の硬さは微妙に変わるため、固い場合はゆっくりミルを廻すなど調整しています。

続いて粉からのコーヒー成分の抽出と濾過の工程ですが、ペーパードリップの場合はこの二つを併せて行っていることとなります。一般的には30秒～1分程度蒸らして成分を抽出しやすくした後に膨らんだ泡をなくさないようにお湯を注ぐとおいしい、と言われていますが、日によっては泡がうまく膨らまなかったり、うまくできた！と思っても飲んでみたら今ひとつおいしくなかったりと、操作は単純ですが奥が深い工程です。また、この際に使うお湯の温度調整も重要なファクターで、使う豆とフィルターの厚さによって微妙に調整します。

このように書くと、いつも手間をかけてコーヒーを淹れている優雅な様子を想像されるかもしれませんが、現実にはそうはうまくいきません。今朝もフン♪とコーヒーを淹れようと粉を蒸らし始めた時に、「ガッシャン！」という音がしたと思ったら、娘がビーズ玉のようなものを落として部屋中に散らばってしまったようで、片付けを手伝って戻ってみると蒸らしすぎて泡がしぼみ雑味成分まで落ちてしまった状態のコーヒーが待っていました…。

コーヒーについてはこのような感じですが、これ以外に継続して検討している内容としては「捕まえてきたバッタをどれだけ長生きさせることができるのか？」「寝かしつけの睡魔に勝つためには？」「夜間の洗濯と体重との相関」などありますが、こちらはまた何かの機会に…。

次回ですが、もう少し民間企業から続いてもいいかなと考えまして、学会でよくお会いする富士通の水谷さんにお問い合わせしました。水谷さん、よろしくお願ひします！

〔TDK 株式会社 大石昌弘〕